

平成 20 年 1 月 9 日
東京電力株式会社
柏崎刈羽原子力発電所

ご質問への回答について

地域の会 12 月定例会の後、ご質問をいただいた件について、以下のとおり回答します。

記

質 問：4 号機タービンの動翼、静翼の摩耗について、「想定範囲」という説明がありましたが、どの程度が「想定内」なのでしょうか。
また、ほんの少しの摩耗、接触も発生しないよう水平を保っているとききましたが、摩耗、接触があること自体が危険なのではないでしょうか。

回 答：蒸気タービンは、駆動源である原子炉からの蒸気の供給を遮断した後も慣性により回転を続け、通常、2 時間程度の時間をかけて停止に至ります。
今回の地震発生時においては、回転体である動翼と静止体である静翼が一時的に接触し、摩耗や接触痕が発生しましたが、その後、タービンが停止するまでの過程においては、通常と同様に 2 時間程度で停止したことから、タービン回転の妨げになるような大きな問題は無いものと想定しておりました。

今般、タービンの開放点検を実施した結果、動翼、静翼に摩耗や接触痕が確認されましたが、タービン翼破断等の大きな損傷は無く、タービンの安全装置により、タービンへの蒸気が遮断され、所定通りタービンが停止し、安全上の問題も無かったことから、事前に想定した範囲内であった旨を説明させていただいたものです。

また、通常の運転時においては、万一、タービンロータ（軸）の移動量が設定値を超えた場合、直ちにこれを検知し、動翼と静翼が接触する前にタービンを安全に停止する仕組みとなっています。

以 上